

## 第6分科会「学校や行政、地域組織との効果的な連携」

ファシリテーター 小山忠弘 札幌国際大学名誉教授・元岩見沢市教育長

まず最初に、ファシリテーターの小山さんから、この分科会では模造紙にいろいろな意見を書いたり、貼り付けたりはしません。アンケート用紙を配りますので、まずアンケートに記入してくださいから始まりました。

内容は「自分の関りの現状」（子ども会・学校コミュニティスクール・行政・地域組織）の項目についての現状の記入後、県こ連会長等から挙手してそれぞれの現状、特徴、問題点をランダムに話し始める。その内容に、ファシリテーターの小山さんから質問が入る。

（内容）

学校との連携は、校長先生によって温度差がかなりあるという意見が複数出ていた。

その中で藤枝市では、藤枝市こ連の役員に校長先生が入っているという稀有な意見もあった。

大人（上から）の行事の押し付けでよいのか？

子どもが企画運営し、実行した行事が良かった。

こども会員の減少と言っているが、こども会に入っていないなくても活動をしている子どもはたくさんいる。

こども会は子どもの居場所になれるのかの要請

こども会は社会教育の指導者

県（市）こ連育成協議会は、ジュニアリーダー、シニアリーダーの養成が役割では？

等の意見が出された。ここには書ききれないほど意見が多く出された。

最後にファシリテーターの小山さんから、

こまった×こまった＝よかった（かけはし）

皆さんは、かけはしになって欲しい。

という最期の締めで分科会の午前の部は終了した。

飛石隆男さん（堺市）